

平成30年度 学校経営計画に対する中間報告書

						石川県立宝達高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	中間評価	
1 生徒の進路志望100%実現を目指すために、3年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する。 ・学習規律の遵守と家庭学習の確立 ・基礎学力の定着と生徒の学ぶ意欲を喚起 ・学習指導方法の改善と生徒の思考力・判断力・表現力の育成	学習規律の遵守に努め、主体的に授業に取り組む態度の定着を図る。	各教科 教務課	「学びの4か条」を掲示し、挨拶や学習規律の指導に努めている。	【成果指標】 学習規律を守っている生徒の割合が100%になる	学習規律を守っている生徒の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	教職員調査(7月) A(61.9)+B(28.6) = 90.5% 達成度：C 生徒調査(7月) A(54.0)+B(33.3) = 87.3% 達成度：D	昨年度同時期より学習規律を守る生徒の割合は1.4%上がったが、達成判断基準を高く設定したため、達成度はDとなった。生徒全員が学習規律を守るように、教員もより意識を高く持ち、継続して取り組む必要がある。
	生徒の実態に合わせて個別に目標設定を行い、計画的に学習に取り組ませる。また、授業での学習内容が次の授業につながるような取り組みやすい課題を与え、学習内容の定着を図る。	各教科 教務課 各学年	昨年度は家庭学習時間60分以上の生徒が約37.5%で生徒の進路実現には不十分な現状であり、組織的な取組みが必要である。	【成果指標】 60分以上の家庭学習時間を確保している。	家庭学習時間が60分以上生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	生徒調査(7月) 120分以上 7.1% 60~120分 35.7% 60分以上合計 42.8% 達成度：D	昨年同期と比較して家庭学習の時間が少し増えてはいるが、まだまだ足りない。特に3年生の時間が少なく、家庭での学習が進路実現に大きくつながることを理解させ、粘り強く指導していく必要がある。
	シラバスに学び直しの項目を入れ、授業中に活用を図る。また、学び直しについても適切に評価し、学習意欲を喚起することで基礎学力の定着を図る。	各教科 教務課	朝学習で基本事項の学習を行い、授業でも学び直しの内容を積極的に取り入れて指導している。	【努力指標】 学び直し教材の効果的な活用を図っている教員の割合が100%になる。	学び直しのための教材を作成し、活用した教員の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	教職員調査(7月) A(66.7)+B(33.3) = 100.0% 達成度：A	学び直しを意識した指導が行われており、年間を通してこの努力指標が維持されるよう継続して取り組みたい。
	授業に書画カメラやiPadなどのICT機器を活用して映像や視覚的な効果を取り入れ、生徒の学ぶ意欲を喚起する。	各教科 教務課	各階に移動型のプロジェクターを備えICT機器の利便性を図っている。活動時数も記録することにより意識的に利用して授業を行う教員が増えている。	【努力指標】 ICT機器の効果的な活用を図る。	ICTの活用により、学習意欲が高まったと感じている生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(7月) A(48.8)+B(21.0) = 69.8% 達成度：D	iPad やプロジェクターが増えICT機器の使用頻度も高まったが、その使用方法について生徒の学習意欲をより高めるように工夫をする必要がある。
	各種研修や地域交流事業における授業参観等を通して、学習指導方法の改善に努める。	各教科 教務課	研修センターの研修や校内互見授業を通して、学習指導方法の改善に努めている。又、地域交流事業で小・中学校の授業を参観し、よりわかりやすい授業を日々模索している。	【満足度指標】 生徒が授業における指示や説明がわかりやすいと感じる。	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(7月) A(73.2)+B(17.9) = 91.1% 達成度：A	各種研修や小中学校の授業参観等を通して授業の改善に努め、生徒のつまずきに常に注意を払いながら授業を行っている。生徒もわかりやすいと感じている。

							石川県立宝達高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	中間評価		
1	生徒の進路志望 100%実現を目指すために、3年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する。 ・学習規律の遵守と家庭学習の確立 ・基礎学力の定着と生徒の学ぶ意欲を喚起 ・学習指導方法の改善と生徒の思考力・判断力・表現力の育成	各教科 教務課	主体的・対話的・深い学びの授業を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る必要がある。	【努力指標】 生徒に発表等の主体的に活動する機会を与えている。	主体的・対話的・深い学びの授業を取り入れている教員の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未滿	教職員調査(7月) A(45.0)+B(30.0) = 75.0% 達成度：C	「わかりやすい授業」についてはほぼ達成できているので、思考力・判断力・表現力を育成するために積極的に主体的・対話的・深い学びの授業を取り入れていく必要がある。	
	上級学校理解・職業理解などを通じて、生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導する。目標とする進路実現のために学習に主体的に取り組むよう、各学年のキャリア教育を段階的・系統的に関連付けて実施する。	進路指 導課 各学年	進路実現のために、基礎学力の向上に継続的に取り組んでいる。進路行事としては「卒業生と語る会」1年「企業・学校見学」、2年「進路ガイダンス」、2・3年「インターンシップ」などを実施し、生徒の進路意識高揚に努めている。取り組みは学年段階に応じて適切に行っている。	【満足度指標】 各学年のキャリア学習が、上級学校理解・職業理解などを通じて生徒の進路選択に役立っている。	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っているとする生徒の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未滿	生徒調査(7月) A(65.1)+B(23.0) =88.1% 達成度：B	前年度同時期は81.6%であり、ここ数年漸次増加している。後期に向けても、以下の点に留意して実施を継続していく。生徒の資質(知識・意欲等)の伸張を期した3年計画。校内・校外行事のバランス。講義形式・参加型等の多様な形式。補習・面接練習等実戦的な演習。	
	ホーム担任が「面談シート」を活用して、生徒の卒業後の進路に対する思いや情報が把握できるように、個人面談を適時適切に行い、生徒の進路意識の向上と進路実現を目指す。	進路指 導課 各学年	個人面談が、進路意識の深まりや進路学習に効果が出るように、面談の質・量両面の充実を目指している。生徒の学習状況・家庭状況の的確な把握や、進路決定や悩みの解消になるよう努めている。	【満足度指標】 個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に役立っている。	個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に効果があったとする生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未滿	生徒調査(7月) A(57.9)+B(33.3) =91.2% 達成度：A	前年度同時期は86.7%であり、効果ありという回答が4.5ポイント増加した。これは、各担任が面談において、生徒が進路選択に関する問題意識を持つよう継続的に指導した成果である。生徒の希望状況に配慮し、今後も継続して指導していく。	
	生徒ひとりひとりの早期の目標設定を行い、切磋琢磨し相乗効果をあげるための学習グループの形成を目指す。進路ガイダンス、模擬試験、進学補習、作文・面接指導など、系統的・段階的な取組みを実施する。	進路指 導課 各学年	昨年度は、希望する生徒全員が進学あるいは就職の進路実現を果たした。生徒ひとりひとりが希望進路に進めるよう、全体指導・個別指導をきめ細かく継続的に実施している。	【成果指標】 生徒の進路実現率が100%になる。	生徒の進路実現率が A：100% B：95%以上 C：90%以上 D：90%未滿	達成度がC、Dの場合、指導法の改善に努める。	12月・年度末に集計(進路指導課)	

重点目標		具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	中間評価	
2	自主自律の精神を持った社会人としての資質・能力を身に付ける。 ・基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚 ・挨拶などのマナーやコミュニケーション能力の育成	登下校指導を行い、教師が積極的に挨拶を交わし、全校挙げて生徒によるあいさつ運動の充実を図るとともに、身だしなみ（端正な制服の着こなしと頭髪）を守ることによって、社会人の一員としての自覚を促す。	生徒指導課 各学年	自ら進んで挨拶ができると答えた生徒の割合は昨年度に比べて上昇している。頭髪服装検査で不合格となる生徒も4月当初と比べてかなり減少してきており、生徒の規範意識は徐々に高まっているが、継続的な指導が必要である。	【成果指標】 挨拶の励行や身だしなみがきちんとしている。	生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしていると答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未滿	生徒調査(7月) 挨拶 A(38.1)+B(43.7) =81.8% 達成度C 頭髪・服装 A(50.0)+B(40.5) =90.5% 達成度A	「自ら進んで挨拶ができる」生徒の割合は81.8%で前年度比1.0ポイント減少。また、「服装・頭髪の身だしなみがきちんとしている」生徒の割合は90.5%で3.9ポイント上昇。より一層、挨拶の指導を全教職員挙げて取り組んでいきたい。
		全教職員が協働して、遅刻ゼロ運動を進める。 ・各学年の1日の平均遅刻人数を毎月集計する。 ・遅刻の多い生徒には、個別面談を行い、生活の見直しや改善につなげる。	生徒指導課 各学年	担任から保護者への電話連絡や、教職員どうしの情報交換を継続してきた結果、昨年度の1日あたりの遅刻者数は、 1年生 1.08人 2年生 1.61人 3年生 1.70人 であった。7月期に比べ、2年生は減少し、1・3年生が増加した。	【成果指標】 1日あたりの遅刻者数が減少している。	1日の平均遅刻者数指標 1学年 1人以内 2学年 1人以内 3学年 1人以内 1日の平均遅刻者数の達成率が A：各学年とも目標を達成した B：2つの学年が達成した C：1つの学年が達成した D：全学年が達成できなかった	学年毎の1日当たりの遅刻者数 1学年 0.13人 2学年 0.70人 3学年 0.63人 達成度A	各ホーム担任が日頃から家庭と電話連絡をとり、他の教職員と生徒の情報交換を密にしているため、目標を達成できている。また、全学年では遅刻する生徒は固定化されている。今後、固定化された生徒を減少させる指導に努めていきたい。
3	宝達高生としての愛校心や自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨く。 ・部活動や特別活動、地域貢献活動の充実と活性化	平常清掃の大切さを呼びかけ、積極的な参加を促す。また、環境整備委員等の働きかけによる美化コンクールを通じ、環境美化への自主性を高める。	厚生課	昨年度は「進んで清掃活動に取り組んでいる」生徒の割合は89.0%であった。今年度は、環境整備委員による清掃時の呼びかけや掃除指導の機会を増やし、各生徒がより清掃活動の必要性を理解し、自主的に取り組めるよう働きかけていきたい。	【成果指標】 役割分担をし、協力して清掃活動に取り組む事ができている。	役割分担をし、協力して清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未滿	生徒調査(7月) A(65.9)+B(24.6) =90.5 達成度A	昨年同より、2ポイント増加した。環境整備委員と連携をより一層強め美化コンクールや大掃除などを通して校内の美化に対する意識の高揚に努めていきたい。
		基本的生活習慣確立のために年間6回「生活自己チェックカード」を実施し、生徒一人ひとりの生活状況やいじめ等の悩みを把握し指導に活かす。	厚生課 生徒指導課	生活自己チェックカードの結果は職員会議等で共有されているが、全体の集計結果の把握が中心で、個々の指導に活かされているかを確認する機会が少なかった。	【努力指標】 生活自己チェックカードの結果を面談や生徒指導に分に活用する。	生活自己チェックカードの結果が個々の指導に活かされていると答えた教員の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未滿	教員調査(7月) A(57.1)+B(33.3) =90.4 達成度C	昨年同期、7.4ポイント減少した。今後は調査結果を指導や面談で活かし、生活習慣の改善に繋げていきたい。「いじめ」の項目については、生徒指導と情報を共有し連携したい。

								石川県立宝達高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考		
3	宝達高生としての愛校心や自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨く。 ・部活動や特別活動、地域貢献活動の充実と活性化		部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に加入し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。	生徒会課 各学年	年度当初は全員部活動に加入するが、後半には部活動に消極的な生徒が増えてくる。年度途中で退部してしまう生徒への指導に努めることにより、積極的な部活動への加入の取組を促す必要がある。	【成果指標】 継続的に部活動に取り組む姿勢を培う指導ができています。	部活動に加入し年間を通して継続的に取り組んでいる生徒の割合が A : 90% 以上 B : 80% 以上 C : 70% 以上 D : 70% 未満	生徒調査(7月) A(80.2)+B(11.9) =92.1% 達成度 A	昨年同期より、5.4ポイント増加した。 退部や転部をした生徒はほとんどみられなかったものの、顧問に無断で欠席する生徒も一部みられ、顧問と担任が連携して指導していく必要があると思われる。
			生徒会や部単位での活動を主として、地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。	生徒会課 各学年	生徒は、地域への貢献活動やボランティア活動に対する意識が高いとは言えず、一部の生徒の活動になっている。年々活動は盛んになりつつあるが、ボランティア活動に対する地域貢献の意識の高揚を図ることが求められる。	【成果指標】 地域への貢献活動やボランティア活動に取り組む姿勢を培う指導ができています。	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A : 85% 以上 B : 75% 以上 C : 65% 以上 D : 65% 未満	生徒調査(7月) A(50.0)+B(30.2) =80.2% 達成度 B	昨年同期より、8.9ポイント増加した。 駅舎清掃は部活動を中心に活発に行っているが、自ら積極的にボランティア活動に取り組もうとする意識はまだ低い。今後も意識付けをさせていきたい。
4	近隣の小・中学校との連携を密にし、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。 ・学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信		HPの更新を通して、生徒、保護者および地域住民へ速やかに情報を発信するとともに、HPの閲覧を推進し、本校の良さを理解してもらおう。	総務課 各学年	多くの生徒、保護者へ迅速に情報を提供する必要があります。また、地域住民、特に中学生に情報を発信し、日頃から本校への理解を深めてもらえよう取り組みたい。	【成果指標】 より多くの生徒、保護者および地域住民が継続して本校のHPを閲覧するような働きかけができています。	本校のホームページの閲覧回数が日平均で A : 130回以上 B : 110回以上 C : 90回以上 D : 90回未満	HP閲覧回数 (4月～7月) 日平均： 約228回 達成度 A	本校のホームページについて宝達志水町内に配付する広報や保護者・生徒へのメールに記載し、HPの閲覧を勧めた。多くの生徒、保護者および地域住民に継続して閲覧してもらえるように、行事・大会・活動状況など様々な情報を更新していく。
5	職員は勤務時間を意識した効率的な働き方に努める。		限られた時間を意識した働き方を行う。	総務課	教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるように、計画的・効率的なタイムマネジメントが必要である。	【努力指標】 見通しを持ち計画的に業務を行う。	見通しを持ち計画的な業務ができた教員の割合が A : 80% 以上 B : 70% 以上 C : 60% 以上 D : 60% 未満	A(57.1)+B(28.6) = 85.7% 達成度 A	業務の適正化・役割分担を推進するとともに、各教員が計画的かつ効率的なタイムマネジメントをするようになった。